

ChatGPT に聞いてみた

中国は監視カメラによる監視社会、中国の速度違反取締は

ChatGPT:

中国における速度違反の取り締まりは、世界でも屈指の高度な監視システムに支えられたものです。

これは「監視社会」としての側面と、「交通違反ゼロ化」への強い国家方針が重なった結果であり、**AI・顔認証・ナンバープレート認識技術(LPR)**が組み込まれています。

CN 中国の速度違反取り締まりの特徴

1. 全国規模で AI 監視カメラによるリアルタイム取締り

- 高速道路・市街地・農村問わず、監視カメラ(監控)網が極めて密。
- **ナンバープレート認識(LPR)**により、違反車両の速度・進入・通過時間・車種などを正確に自動測定。
- AI が「時速〇km 以上」「平均速度超過」などを検出 → 自動で罰則通知。

2. 区間平均速度(Section Control)も一般的

- 「入口・出口の通過時間で平均速度を算出」する方式。
- 渋滞時に一時的にスピードを出すドライバーの取り締まりにも有効。
- 高速道路や国道で多用。

3. 違反処理は完全オンライン化

- 違反検出→通知→罰金支払いまで全てスマホアプリや WeChat ミニプログラムで完結。
- 処理しなければ、運転免許の更新や車検、ETC 利用が停止されることも。

4. ペナルティが厳格かつ一元管理

- 速度超過ごとに「違反点数」+「罰金」が加算され、年間 12 点で免許停止。
- 例(2024 年時点の一般的基準):

速度超過	罰金	点数
+10km/h 未満	約 100 元(約 2,000 円)	0~1 点
+10~20km/h	約 200 元	3 点
+20~50km/h	約 500 元	6 点
+50km/h 以上	約 1,000 元以上 + 免許停止	12 点

5. 顔認証・社会信用スコアとの連携(※一部地域)

- 違反の累積が多いドライバーは「信用格付け(芝麻信用など)」に影響。
- 重大違反者は顔画像+車両ナンバーがデジタル掲示板で晒されることも。
- 特定地域では「歩行者の信号無視」も顔認識+通知が行われる。

監視社会としての交通管理の意味

ポジティブ面	ネガティブ面
交通事故・違反が大幅に減少	プライバシーの侵害リスク
取締の恣意性が排除されやすい	国家による行動監視の強化
効率的な自動交通制御が可能	誤認による処罰や異議申し立ての困難

他国との比較(日本・ドイツ)

項目	中国	ドイツ	日本
オービス密度	非常に高い	高い(科学的運用)	中~低
AI・LPR 活用	全面導入済	導入段階	一部導入中
顔認証・信用連携	一部実施	なし	なし
平均速度取締	広く導入	一部導入	ごく一部のみ

日本が中国式から学べる点(ただし注意が必要)

導入可能	留意点
平均速度による自動取締	プライバシーとのバランスが必要
AI オービス+リアルタイム違反通知	法制度の整備が必要

導入可能

アプリによる違反処理の自動化

留意点

高齢者・IT 弱者対応



まとめ：

中国の速度違反取り締まりは「監視網 × AI × 自動化 × 厳罰主義」が融合したものであり、

日本や他国よりも圧倒的に技術的・制度的に進んでいるが、同時に自由・人権との緊張関係も抱えています。